

発表概要

発表①

「中学から高校へ：英語教育で広がる思考と成長」

岡田ひとみ（高松中央高等学校）

本発表は、中学と高校の英語教育の違いに着目し、高校での英語授業の展開を探る教育実践の報告です。中学と高校の両方で「修学旅行の思い出」というリーディング教材を使用し授業を行いました。中学では基礎的な語彙や文法の習得を重視しましたが、高校では中学の基礎を土台に、生徒の課題発見能力や課題解決能力を高める要素を追加しました。具体的には、思考ツールやディスカッションを用いて、他者の意見を取り入れながら自分の考えを深める授業を展開しました。このアプローチにより、生徒が英語を単なるコミュニケーションツールとしてだけでなく、自己成長や他者理解を促進する手段として活用できるようになることを目指しています。

発表②

「生徒の主体的な文法学習を促す中高一貫校の指導」

石川友哉（渋谷教育学園幕張中学校高等学校）

本校では、中学2年で中学検定教科書3年分を終了し、高2で高校の検定教科書3年分を終えるように共通したカリキュラムを設定している。中学では、検定教科書をベースに教員主導ながらも4技能5領域をバランスよく指導できている。しかしながら、高校課程では指導すべき項目が多く一方的な説明が多くなりがちだ。そこで、筆者は中3の英語、高1の論理表現の授業で生徒に文法の授業をさせる試みを行った。中3では、教科書が二学期に終わるため、3学期に既習文法をグループごとに割り振り、生徒に授業を考えさせた。また、高1論理表現では1学期と2学期に2回実施した。高1では新出事項が多いレッスンでは教員が主導で授業を行い、既習事項が多く、参考書を読めば分かりそうな箇所を指定して実施した。試験の結果は、教員主導型に比べて下がることはなく、授業アンケートでも好評であった。授業を考えることで、参考書や教科書を自主的に読み、友人の授業には興味を持って参加する生徒が増えた。また高1では2回発表を設定したことで、初回の反省を生かして多くのグループで改善があった。